

## 2014年度 第4回 番組審議会 議事録

### I. 開催概要

2015年2月23日(月) 15時30分～16時30分 キッズステーション本社会議室

### II. 出席者

#### 1. 審議委員 : 5名

斎藤汎司(コンテンツビジネス、契約アドバイザー)  
田口成光(脚本家・放送作家)  
菅谷 実(慶應義塾大学教授 政策・メディア研究科委員)  
北風祐子(株式会社電通 マーケティングソリューション局 部長)  
高芝利仁(高芝法律事務所 弁護士)

[順不同;敬称略]

#### 2. 事業者側 : 6名

[経営] 宮内康行(代表取締役社長CEO)、北折尚志(取締役COO)  
[制作] 押田聖弘(制作部長)、竹内誉人(部長代理)  
[事務局] 飯野博之(経営企画室長兼広報室長)、沼生祐介(広報室員)

### III. 議事内容

#### 1. 社長挨拶 株式会社キッズステーション 代表取締役社長CEO 宮内康行

第4回の番組審議会にお集まり頂き、ありがとうございます。今回ご審議頂く「アニぱら音楽館」は当社の中では歴史ある番組であり、影山ヒロノブさんや遠藤正明さんといった有名なお二人を中心にライブでお届けしている番組で、活気ある雰囲気収録をしています。

今後ともこの番組を続けて参りたいと考えますし、昨年ニコニコ動画での配信を開始し、プラットフォームを広げてやっていきたいと考えています。忌憚のないご意見を頂ければと思います。

それでは、ご審議のほどよろしくお願い致します。

#### 2. 番組審議 司会進行: 斎藤汎司副委員長

##### 1) 対象番組: 「アニぱら音楽館 アニソンヒットソング2014 リクエストSP」

##### ① 番組説明

- タイトル : 「アニぱら音楽館 アニソンヒットソング2014 リクエストSP」に関する資料を事前配布
- 放送日時: 初回2015年1月23日(金)午後11時～、リポート深夜3時
- 主要対象: 大人
- 放送尺 : 30分(HD)
- 作品紹介<概要>

放送開始から15年、長年愛され続けている、元祖・アニメソングライブ番組が、新たなメンバーを迎え、さらなる進化を遂げる! アニソン界でも歌唱力で定評があるレギュラーメンバーが、“心に響く歌”“世代を超えて愛され続ける歌”“今、旬な歌”など、様々なアニソンをお届け。さらに、他では見られないレアなセッションライブや、出演者が歌いたい歌、視聴者が聞きたい歌などのリクエストに応える企画、ボカロ曲を歌ってみる企画など、新たな試み、様々な企画も続々登場! アニメミュージックシーンをけん引し続ける、幅広い世代が楽しめる音楽番組。

②合評： 委：番組審議委員／局：キッズステーション

局：「アニぱら音楽館」は2001年2月からスタートし、4月より担当している。

2001年10月から今の様な生バンドのスタイルをずっと貫いている。アニメソングを生バンドのライブスタイルで展開する音楽番組としては元祖の番組。その後他局でも同様のスタイルの番組がでてきたが、継続して存続している番組としては本番組以外ない状態になっている。

昨年、レギュラー出演者の交代があり、現体制になってからニコニコ動画(ニコ動)での番組宣伝の生放送(ニコ生)をキッズステーションオンエアの前日に行い、ニコ動のチャンネルの中でもこの番組配信の試みを始めている。オンエア前のニコ生はニコ動出身の人気アーティストのGeroさんを中心に行っている。生放送なので、直接見ている方々のご意見や反応をリアルタイムに頂ける状況になっている。

今回の企画はニコ生で、誰にどのような曲を歌って欲しいかの要望を聞き、それらを集計して番組制作に取り入れた。

委：その道で有名な方なのだろうなと思って見ていたのだが、女性の方々の歌がとても上手で、多くのファンがいらっしゃるのだろうなということがひしひしと伝わってきて、すごく迫力があつた。間のトークも肩に力が入っていない感じで、3本連続取りは辛いとか、海外ロケに行きたいとかおっしゃっていたので、身近に感じた。みんなでこの曲を歌って欲しいというリクエストに応えているので、視聴者との距離はより近くなっているとも感じた。

委：選曲の基準は、オリコン等の順位ではなく、ニコ動からの出たリクエストを元にしていうことか。

局：そうだ。どのアーティストにどの曲を歌って欲しいとか、去年ヒットした曲でこのメンバーに歌って欲しい曲は何か等を募集した。エッジの効いた選曲ではあるが、放送だけでなくニコ動でも配信されることもあり、この回では10代から20代の視聴者を意識しての選曲を行った。

委：「アニぱら音楽館」の固定視聴ファン層とは層を異にしているのか。

局：2年くらい前はM1、M2層を主ターゲット層として番組を制作してきたが、ニコ動での展開を行ってからは視聴者層が従来より拡大した。新規視聴者の開拓や、CS放送以外のアウトプット(配信等)を目的とした試みとしてニコ動での展開を行っている。若い層の多いニコ動での配信を起点にCS放送の視聴に繋がればという思いがあり、ティーンも見据えての番組制作を行っている。

委：ニコ動での配信は有料で行っているのか。

局：有料で行っている。

委：キッズステーションにとっては自前コンテンツのマルチユースとして展開されているということか。

局：そうだ。

委：映像は、他の配信系プラットフォームに漏れたりしているか。

局：見つけ次第削除申請を行っている。

局：昨年、Youtube の公式チャンネルを立ち上げたので、削除するのは多少容易になった。

委：海外での需要はどうか。

局：具体的に海外番販の話がある。クールジャパンの流れの後押しもあるが、海外ではまだまだニッチなマーケットと認識している。一部のレコードメーカーなどは積極的に海外でのライブ公演を行っており、歩調を合わせる検討は必要かもしれない。

委：日本で流している動画が海外で違法にアップロードされることもあるのか。

局：この番組だけではなく、アップロードされた過去もあり、地道に消している。

委：正規版コンテンツを出す試みは考えているのか。

局：番組的にはアーティストサイドにプロモーション目的で出て頂いているので、アーカイブとして販売するならば、独自にビジネスを既に行っている会社もあるため、関係各社との調整が必要である。

局：海外進出については難しいこともあり、研究は継続しているが具体的なものはない。親会社の三井物産とも将来を見据えて留意している。

委：違法アップロードに適切に対応しながらの、正規版の国内ネット上での販売取り組みは難しいのか。

局：違法コンテンツ対策のシステム等も有効に活用しながら、どうチャンスをつくっていけるかが重要であると認識している。

委：違法コンテンツがなくならないという前提では、正規版をいかに早く出せるかが重要。

委：キッズステーションとして将来的には音楽著作権、原盤権等に関与していくのか。

局：一部の未就学時向けオリジナル制作番組では楽曲を既にオリジナルで作成しており、DVD 化や CD 販売、音楽配信として展開している。原盤権は持っているが、音楽出版は将来のステップとして考えている。地道にやるしかない。

委：本格的なハイレベルの番組との印象であり、ターゲットもよく理解できた。タイトルの面白い曲もあり、今の若い人がどう面白く感じているのかが興味のあるところである。

委：スタジオは明るい、収録現場は暗めに見えるが。

局：テレビ番組のスタジオ収録とライブの照明（照度）は異なり、本来テレビ番組のスタジオ収録であればアーティストの顔も影ができないようにするのがセオリーである。

収録場所はライブ会場に近いのでテレビ番組用の照明に近づけてはいるが限度がある。番組資料としてお渡ししたDVDはSDということもあり暗く感じるかもしれない。放送と同様のハイビジョンで見るとまた印象が違って見えると思う。

委：曲によっては暗いほうが雰囲気のでるものもある。

委：「アニぱら音楽館」はキッズステーションが春日に事務所があるころからやっているのか。

局：そうだ。今年で15年目となり、最長寿番組である。もともとは情報番組「アニメぱらだいす」の音楽コーナーが独立したものであり、「アニぱら」とは「アニメぱらだいす」の名残である。番組開始当時は生ライブではなく、カラオケでやっていた。

委：アニメソングは最近でもファミリーみんなで聞かれているのか？最近ではどのようにジャンルが細分化されているのか。

局：アニメソングはその昔歌謡曲がそうだったように世代を越えて楽しめるコンテンツとして成長している市場のように思う。視聴ターゲット毎に多様なコンテンツが生み出されるに従って、アニメソングの音楽的なジャンルも多種多様になってきている。

委：「アニぱら音楽館」のファンクラブはあるのか？

局：ファンクラブは無い。しかしながらブログやニコ生などを活用することでお客様の志向性を探るのが容易になった。今後も視聴者の方々に参加頂けるような企画を考えていきたい。

委：意見であるが、アニメのど自慢のような企画をいつか考えてもらいたい。

それから、最近新聞で目にしたが、アニメの制作現場でもペーパーレス作画の手法があるが、これについてどう思うか。

局：様々な企画や制作手法の1アイデアとして参考にしたい。

### 3.報告事項

なし。

最後に、今回は今年度最後の番組審議会となり、今年度お勤め頂きました皆様には1年間ありがとうございました。皆様のおかげで2014年度の番組審議会を無事に終えることができました。頂きましたご意見を参考にこれからもより良い番組づくりを目指してまいります。尚、来年度について、再び、審議委員をお願いさせて頂く方もあるかと思っておりますので、その際は何卒よろしくお願い致します。 本当に忙しい中1年間ありがとうございました。 以上